

徳育

佐世保徳育推進会議

創刊号

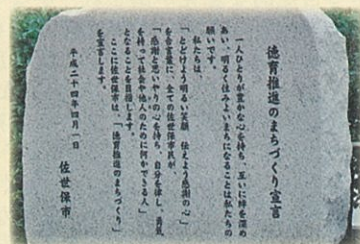


発行日 平成 26 年 3 月 20 日
発行 佐世保徳育推進会議（佐世保市教育会内）
住所 栄町 4 番 1 1 号サンクル 1 番館 F 2
TEL/FAX (0956) 23-2856
E-mail sasebotokuiku@alpha.ocn.ne.jp

発行に あたって

戦後、復興を成し遂げたわが国は物質的に恵まれ、価値観の多様化と個性が尊重される社会を築いてきました。しかし、その一方では個人を重視するあまり、家庭や地域といった共同体の教育力が低下したともいわれています。

生命を尊重する心や他者への配慮、思いやりといった道德心は、生まれながらに備わっているものではなく、大人が子どもをしつけ、教育することで育まれます。今日、こうした道德心を芽生えさせ、育てていくための教育、すなわち徳育の必要性は高まるばかりです。もちろん徳育は、子どもに対するものだけではなく、教育者として



市役所正面に建つ「徳育推進のまちづくり宣言」の碑

の役割を果たすべき大人の徳育も重要です。そのため佐世保市では、大人も子どもも市民一人ひとりが助け合いの精神を持ち、安心して住みよいまちを築いていくため、徳育推進を目標に掲げています。

そこで佐世保徳育推進会議では、これから徳育が市民の皆様に着実に定着していくステップとして、この機関紙を発行することといたしました。



わが家の一徳運動

佐世保市立日野小学校PTA会長
山口 貴之

わが家は、夫婦、小学校 6 年生の長女、幼稚園児の次女の 4 人家族（プラス子犬）です。早寝早起き朝ご飯を大切にしていますが、人間すぐに怠け癖が出てしまい、忘れそうになるのが「おやすみ、おはよう、いただきます」の声かけです。そんな挨拶の定着化に一役買ってくれるのが 5 歳の次女です。幼稚園での日課である「手を合わせてください！ハイ！いただきます！お当番さんも召し上がれ！」の号令で毎日の食事が始まります。些細なことを忘れずに毎日の生活に活かしていきたい我が家のブチ一徳運動です。



山口様家族

わが校の一徳運動

佐世保市立船越小学校

九十九島の景観に面した船越小学校を訪ねると、元気なあいさつで子どもたちが出迎えてくれました。全校児童 108 名が学習発表会などを開催すると、保護者のみならず地域の皆さんも含めて 150 名以上が集うという「地域の教育力」に恵まれた同校ですが、一徳運動として、①あじさい運動、②返事、③くつならべに取り組んでいます。あじさい運動とは、あいさつはじぶんからさわやかにいつでもどこでもだれにでも頭文字ですが、児童会の意見も取り入れて作られており、子どもたち自らが積極的に推進しています。

前田肇伸校長先生のお話では、「くつならべは上手にできているが、返事はもう少しです」とのことでした。目標高く徳育に取り組んでいる船越小でした。（談）



学習発表会で合唱する全校児童

わが社の一徳

有限会社ダイワ工芸 小山 敦也

わが社の仕事は、街の「看板」を創ることです。そして看板を通して街づくりの「名脇役」として地域活動に参加していると思っています。街と調和しながらも生き生きとした存在感を持つ看板は、子どもたちの成長にもきっと良い影響を与えるに違いありません。お客様に信頼していただけること、人と人のつながりが企業活動の原点です。これからも「あなたの会社に頼んでよかった！」と言っていただけの喜びをめざして、「ささやかな一徳運動」に取り組んでいきます。



[25年度]

～徳育で進める明るいまちづくり～

徳育推進 フォーラム

朝長 則男
佐世保市長

対
談

木村 勝彦
佐世保徳育推進会議会長

なぜ今、徳育か

会長 朝長市長が市長選挙の公約に掲げたことにより、佐世保市の徳育は平成20年に佐世保市徳育検討懇話会が設置され、その第一歩を印しました。これを発展させる形で、平成22年には佐世保市徳育推進会議が発足し、この時は佐世保市の諮問委員会の位置付けで、私も委員の一人として参加しました。その活動を経て民間の運動に性格を移し、現在の佐世保徳育推進会議となっています。

そのようなわけで、佐世保における徳育推進は市長の思いに端を発しています。まず市長が徳育を意識されたきっかけはということだったのでしょうか。

市長 私が長崎県議会議員だった当時ですが、県で「心ねっこ運動」が始まりました。ところが3年目になると、議会の中で否定的な意見が出され、かなり議論をした覚えがあります。私としては、人の心の問題を施策として始めたのなら安易に止めるのではなく、幅を広げ、大々的に取り組んだ方がよいと働きかけ、廃止にならない動きをしました。

その経験から、市長選挙の立候補の際には、徳育をマニフェストに掲げました。お陰様で当選すると、「徳育はどうするんだ」と皆さんが心配してくれます。「前例がない」という人もいましたが、「前例がなければ自分たちで作ればいいじゃないか」というわけで、静岡県袋井市が一つの方向性を示しており、参考にさせていただきました。それと同時に平田徳男先生の考えに強く惹かれていましたので、ご相談すれば何かいい方法論を出して下さるのではないかと、徳育検討懇話会のメンバーに入らせていただいて、検討を進めていくことにしました。

徳は大事なことで、社会としても欲しているが、だれもそれを言いません。ちょうど「心の渇き」のようなものです。このような考え方に共鳴をして下さる方がたくさんいらっしゃるだろうという思いで、現在に至っています。

会長 そうした社会の現状を踏まえて、市政の中に徳育をどのように位置付けておられるのでしょうか。

市長 徳を高めて行くことは、すべての市民の皆様が望まれることではないでしょうか。そういう意味で市役所の職員の皆さんには、チャレンジ(挑戦)、チェンジ(変革)、コミュニケーション(対話)の3Cを訴えています。特に三つ目のCのコミュニケーションは、徳育との関わりがきわめて強いと思います。市民から信頼される職員像というのはやはり徳のある人間であろうと思いますので、市役所の中でも一課一徳運動を行っているところです。

不道徳と無道徳

会長 徳育というのは、知育・徳育・体育という三つの教育の

要素の根幹であろうと思いますが、現代社会においては重要であるはずの徳育が尊重されていません。市長はご自分が子どものころに比べ教育に大きな変化、世相の変化を、特に徳育の観点から感じることはおありでしょうか。

市長 私は、小学生のころから長嶋さんや王さんにあこがれ、野球ばかりしていました。中学生になっても、体育の先生が野球の監督で相当に鍛えられましたが、その中で常に徳を教えてもらっていたという気がします。そのころは「道徳」の授業が学校でやつと始まったか始まらないかというところでしたが、「道徳」だけ取り出してうんぬんということではありませんでした。これは表現的にどうかと思いますが、戦前の教育を受けられた方々がまだ先生としていらっしゃった。また、社会の中にもそういう方がたくさんいらっしゃいましたから、地域社会の中でも自然に徳の問題を教えていただいたという感じがしています。我々の世代になってそうした先輩方の教えをきちんと受け止めず、次の世代に伝えられていないことが問題なのだと思います。



会長 近年、「子どもの危機」ということが叫ばれています。つまり子どもが「不道徳」というのでなく、「無道徳」な子どもが生まれてきていると指摘されています。「不道徳」とは道徳があると前提したうえで、それに対して道徳的でないことをやってしまう、悪いことをしてしまうことです。それに対して「無道徳」というのはそもそも道徳的な感覚が欠如しており、道徳的な問題の必要性を認識していないことであり、こちらの方がより根の深い事態であると言えます。

そうした状況の中で、佐世保市の徳育推進活動では、大人の徳育における役割という問題に視点を移しています。子どもを有為な社会的成員として育て、確固たる人格として陶冶するというのが大人の役割ですが、市長のお考えはいかがでしょうか。

大人に徳育が必要

市長 小学校の時には、道徳をある程度^{しつこ}のような形で「これはこうすべきである」と教えれば、素直に受け止めていたものが、中学校の頃からは忘れ去られる訳ではないにしても、徳育についてはなおざりになってしまいがちです。

平田先生から教えていただいたことに、人間の徳を形成



する三つの習熟の時があります。一つ目は、頭では「わかる」ということで、これはみな中学生でも知っている。しかし、二つ目の「できる」になると、なかなかできる状態に至っていない人が多い。そして三つ目が「身に付く」ということで、この段階では何も言われなくとも、頭で考えなくとも自然とできるようになることを言います。

会長 私が先ほど「無道徳」ということをお話したのも、それはまったく道徳感覚がないということではなく、教えられていない側面が強いと言えます。何を教えるのかということ、確固たる価値観、道徳的な規範意識が大人の側にあって、それを教えるのでなければならない。過去の日本の教養が理想的ということではないのですが、たとえば薩摩藩では郷中教育が行われていましたが、そこでは簡潔明瞭に「偽（うそ）をいうな」「負けるな」「弱いものをいじめるな」と、この三つだけを徹底して教え込みました。こういう教えを受けた子どもたちが大人になって、またその子どもたちに教えていくわけです。それから大河ドラマで話題になった会津日新館の「仕の教え」なども非常に明確な規範意識であり、このように明確な価値観を教えることが、現代では家庭においても、地域においても不足しているのではないかと考えております。それについて市長は、どのようにお考えでしょうか。

市長 昔は、日本人のバックボーンになるものがあつたのではないのでしょうか。それが今の時代は、コア（核）になるものが欠けている。会津の教えにしろ、薩摩の教えにしろ、大事なことを端的かつ明瞭に表していると思います。

マナー意識の希薄化

会長 こうしたコアになるような価値観の欠如が積み重ねられた結果、大人の問題として、現代社会の非常に憂うべき状況を生み出していると思われまふ。我を抑えようとか、縛ろうとかというのではなく、自分の思いのままに私利・私欲を優先させる人ばかりになっているのではないのでしょうか。

市長 私は人間社会ではルールを守っていくということが非常に大事だと思っています。多くのルールは、それを破っても罰せられません。それが社会的な慣習とか、マナーとかというものでしょうが、今日は、この罰せられないものについての意識が希薄になっていると思います。

会長 現在、日本中の大学で問題になっているのは授業中の「私語」です。私語するくらいなら授業に出なければいいではないかと思うのですが、出席点がほしいものだから皆出て来ます。ところが最近、大学の私語がなくなったと先生たちが喜んでいたら、皆スマホやゲームをやっていたという笑い話のような状況があります。

学校は、社会の縮図だと言われます。学校の中で起きていることが、社会の中ではさらに倍加している。そうした中で、大人の徳育を推進するというには大きな困難を伴うと思うのですが、佐世保の徳育推進にあたって、市長は大人の徳育を重要な眼目として捉えていらっしゃるんですね。

市長 学校で習ったことはキチツと大人社会でもやるべきではないか、と言っています。大人社会をしっかりと築きあげなくてはいいけません。それが我々大人に課せられていることであって、「いや、それはなかなか難しい」と言ってしまうと、それで終わってしまいます。難しいからと言って動かなければ、何も始まりません。

そこで佐世保の場合は、徳育推進を地道であってもやり始め、やり続けることが将来につながっていくと思います。若い人たちが見習ってくれるように、次の世代の人たちに背中を見せなければいけません。しっかりした背中を見せ、戦後失われたものを今の時代に取り返すために、しっかりと考えて行動に移していかなければなりません。だからこそ大人社会での徳育推進を推進するべきだと思います。

徳育推進活動の現状と展望

会長 ただ今のお話のように、現代社会のさまざまな問題を見

据える中で、子どものみならず、大人の徳育推進を図るということで、市長は佐世保市の徳育推進活動を展開するきっかけを作られました。佐世保市の徳育推進活動の現状と展望について市長はどのようにお考えでしょうか。

市長 非常に早いスピードで広がっていると思います。いろいろな団体、幼稚園、保育所、小学校はもとより、老人会、町内会などにも積極的に取り組んでいただいています。無論多少の温度差はあるかもしれませんが、「何とかしなければいけない」というような共通認識はできつつあるのかなと思います。

今後はマンネリ化しないように、皆様がどう続けていくのか、そういう気持ちをもどのようにして持ち続けていられるのかを考えて行かなければならないと思います。いつもすべてが同じテーマ、同じスローガンというのではなく、徳目の類型というものを作りながらも、その中から自分たちに相応しいものを抽出していくことも一つの方法ではないでしょうか。いずれにしても一徳運動については、今は挨拶を中心にでもいいのですが、これだけだと行き詰まると思いますので、挨拶だけでなくもっと幅広いものも徳目としてしっかりとお示しいただき、それを市民の皆様が選択していくということが必要だと思います。

会長 一徳運動の中で印象に残っているものがあれば、感想も交えてご紹介をお願いします。

市長 『広報させほ』では、「徳育通信」を多くの方々に書いていただいています。これは非常に参考になると思います。これを材料にしながら、それぞれの団体、会社で取り上げていくということも一つの方法です。家庭においては、徳育ノートを作っていくことが、自分の世代だけでなく、次の世代へのプレゼントでもあります。まとめて印刷をすれば済むことかもしれませんが、それでは心に残りません。自分の父母が毎回のりを付けて貼り、保存をしてくれたノートを引き継いでいく。その時にはわからないかもしれませんが、何年か後に「これは父から、母からいただいたもの。自分の生き方に芯を与えてくれるもの」と考えさせてくれるのではないのでしょうか。そういう活用をしていただければと思います。



徳育から見る佐世保市の未来像

会長 そうした徳育を推進することによって、市長の描かれる佐世保市の未来像とはどのようなものなのでしょうか。佐世保をどのようなまちにしたいのかという、あるべき佐世保の未来像をお伺いしたいと思います。

市長 孔子の時代に『論語』が作られました。これは弟子たちの手によって作られたものですが、世の中が乱れていたもので、これは何とかしなければいけないという思いで、孔子の教えを弟子たちがまとめて問答にしたのでしょう。他の時代でも、世の中は決して常に良い方向に進んでばかりいるわけではなかったのです。だからこそ、危機感を持って次世代にキチツとした形で渡していかなければならず、その積み重ねが大事です。それを今やらなければいけないと強く思っています。

そして、私は徳とは「得」だと考えています。一徳運動の徳ですが、そのような徳のある人間は信用される。会社においても、社会においても信用されます。徳を磨くということは自分を高めるということで、それが自分の財産となります。徳を磨いていれば、その会社の中で得になるのです。ですから、徳は得ということで私の話を収めさせて下さい。徳は自分を磨くことで、人のためにやることではないのです。そして、自分を磨くことで、社会のためにもなっていくことができるのではないのでしょうか。



「徳育」ロゴマーク誕生経緯



平成 24 年 4 月に発足した民間団体である佐世保徳育推進会議では、市民の方に「徳育」を知ってもらい、身近に感じていただく第一歩として活動のシンボルとなるデザインを募集することになりました。

佐世保市に在住するか、通勤・通学する人を対象として、その年の 11 月から 2 か月間公募したところ、小学生から 60 代までの方から 72 点の作品応募がありました。いずれも力作、徳育の思いにあふれるものでしたが、佐世保らしさ、徳育の具現化されたデザイン、親しみやすさなどを基準にして、佐世保徳育推進会議内で厳正に審議検討し、優秀賞 5 点を選出しました。このうち心という文字を笑顔で表現した、当時西海学園高等学校 1 年生であった今里愛美莉さんの作品は、見た目にもわかりやすく、徳育推進のシンボルにふさわしいことから最優秀賞として、デザイン化することに決定し、昨年 3 月に表彰も行ったところです。

平成 25 年度に入ってから、このデザインを使って記章(バッジ)、ステッカーを作成し、各団体等に頒布しているところです。目にしたり、手に取られた方もいらっしゃるかもしれませんが、今後とも皆様で可愛がっていただき、「徳育」のシンボルとして大きく育てていただきますようお願い申し上げます。



優秀賞の皆さんと朝長市長、木村会長



袋井市の徳育推進「袋井モデル」



佐世保市が徳育に取り組む以前から、全国で唯一徳育によるまちづくりに取り組んでいるのが、静岡県の中西部に位置する袋井市です。昔から東海道の宿場町として栄え、東海道新幹線、東海道本線、東名高速道路、国道 1 号線など主要鉄道や道路が横断する交通条件に恵まれたほぼ日本の中央部に位置する人口約 8 万 7,000 人の市です。

袋井市では、平成 17 年の市町合併を機に市の教育理念を「心ゆたかな人づくり」と定めています。しかしながら理念実現のためには、昨今の道徳性や規範意識の欠如といった社会的背景を看過できないことから、検討を重ねた結果、「徳育」を進めることとなりました。そこでは、「おもてなしの心」と「感謝の心」をキーワードとし、目指す徳のある市民像を、「思いやりのある心」「自分を律する心」「地域や自然を愛する心」などを備えた「人のために何かができる、心ゆたかな人」としています。そして地域・家庭・学校の役割を明確にして、それぞれの立場でどんな活動ができるのか検討し、「一徳運動」を開始しました。この地域・家庭・学校が、「おもてなしの心」と「感謝の心」を意識して展開する「一徳運動」を徳育推進「袋井モデル」として、現在も積極的に実践されています。



私もひとこと「徳育」について



佐世保徳育推進会議では、多種多様の立場から 29 人が集い、それぞれができることをできる範囲で徳育に取り組んでいます。その一環として、「徳育の日」(平成 25 年 10(とく)月 19(いく)日)に開催したのが「徳育推進フォーラム」です。前ページの朝長市長と木村会長の対談は、その中で行われたものですが、紙幅の都合もあり、話し合われた内容の 3 分の 1 程度の掲載となっています。そのため、「自分の身を燃やして周りを照らすろうそくの火」「現代に氾濫する情報のシャワー」「ケータイを持ったサル」といった印象的なキーワードにまつわる話や、フロアーからのご意見はすべて割愛せざるを得ませんでした。佐世保徳育推進会議の事務局では全文の記録を録っておりますので、関心がおありの方は連絡のほどお願い申し上げます。なお、下記にはフォーラムに参加された皆様からいただいた感想のうち、一部を掲載しております。

- 学校、企業、行政といった子どもから大人までが様々な場所・環境で徳育を進めていくことは、社会生活を送るうえでとても重要なことであり、きっかけ・動機づけになるので市民全体で推進して欲しい
- 市が進める一徳運動をトップが話される機会に参加でき有意義だった
- 大村市民だが、佐世保市の将来が素晴らしいものになるのではとの期待感を持った
- 市長は、子どもたちを徳のある人間に育てたいと素晴らしい取り組みをされておられるが、その手本となる大人社会の徳育の推進がもっとも必要と思う